

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E112J019		工芸 (Potter's Craft)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	1	3	教育学部			氏名 村上 佑介 E-mail y-murakami@oita-u.ac.jp 内線 7594											
授業の概要	工芸制作において素材研究は、作り手の制作意図を達成するために欠かせないものである。本授業では工芸材料を実際に扱い、各自の表現の幅を広げ、あわせて工芸教育における教材開発の基礎的能力を習得することを目的とする。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	素材の特性を理解し、適切に加工することができる。																
目標2	素材から作品のイメージを考案することができる。																
目標3	陶土や繊維を活用した中学校美術科および高等学校芸術科(美術)の教材を提案できる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	「ガイダンス」：本授業の目的を説明し、課題を明確にする。																
2	「陶土研究」：色粘土による象嵌作品の構想																
3	「陶土研究」：粘土の調整																
4	「陶土研究」：成型（器の形を作る）																
5	「陶土研究」：成型（粘土を削る）																
6	「陶土研究」：成形（色粘土を埋める）																
7	「陶土研究」：素焼き																
8	「陶土研究」：施釉、本焼き																
9	「陶土研究」：講評会、レポート																
10	「繊維研究」：題材の説明、図案の作成																
11	「繊維研究」：図案の作成（図案の決定）																
12	「繊維研究」：糸の色、種類の選択																
13	「繊維研究」：糸を貼る																
14	「繊維研究」：糸を貼る（修正）																
15	「繊維研究」：講評会、レポート																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					制作中に各個人作品の指導のなかで、確認、意見交換を行う。 総括・講評会・レポートにより行う。					工 夫 そ の 他 の		なし。				
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	使用する素材について文献等でその特性を学習しておく(5h)。															
	事後学修	授業で学習した素材や、技法について復習し、自身の作品制作に活用する(10h)。															
教科書	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。																
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・東京国立近代美術館工芸課『工芸の見かた・感じかた』, 2010 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』(平成29年告示) ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』(平成30年7月) 																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	完成作品の提出	70%															
	課題レポートおよび講評会での発表	30%															
注意事項	実習では、汚れても良い服装・靴を用意すること。 作陶道具はこちらで用意するが、消耗品代(陶土代や繊維代)が必要となる。詳しくは授業時に提示する。																
備考	工芸 からの発展的な学習であるので、原則として工芸 を履修済み、もしくは履修中の者を対象とする。																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	特別支援学校教諭（美術）、高等学校教諭（美術）
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし
実務経験を いかした教 育内容	中学校および高等学校の立体造形指導に必要な知識と技能を習得する。